

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日: 令和5年 7月18日

更新日: 令和5年 8月 9日

政策No.	4	政策名	心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成	施策主管課	生涯学習課
施策No.	26	施策名	生涯学習の推進	施策主管課長名	深澤 竜馬
施策関連課名		市立図書館、市立美術館			

1 施策の目的と指標

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	市民	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	A 人口	単位	人
			B		
			C		
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	学習テーマを持ち、自主的に学ぶ	(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	① 生涯学習を行っている市民の割合	単位	%
			② スポーツ・レクリエーションを習慣化している市民の割合		%
			③ 図書館レファレンスサービス(調査相談)件数		件
			④		
成果指標設定の考え方	① 生涯学習の実践状況を示す/市民が生涯学習を実践していれば、学習テーマを持ち自主的に学んでいるといえるので、成果指標とした。				
(成果指標設定の理由)	② スポーツ・レクリエーションの実践状況を示す/市民が日頃からスポーツ・レクリエーションを行なっていれば、学習テーマを持ち、自主的に学んでいるといえるので、成果指標とした。本市では、軽スポーツなどのレクリエーションも含めて(スポ・レクなど)推進しており、生涯学習という意味でも、広く体を動かすことを含めて、「スポーツ・レクリエーション」とした。				
	③ 図書館の調査相談の利用状況を示す/市民が学習テーマを持ち、自主的に学んでいけば、身近な図書館での調査相談件数が増加すると考え、成果指標とした。				
	④				
成果指標の測定方法	① 市民アンケート『趣味や娯楽なども含めて、生涯学習を行なっていますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合				
(どのように実績値を把握するか)	② 市民アンケート『習慣的にスポーツやレクリエーション活動を行なっていますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合				
	③ 市立図書館のレファレンスサービスの回答件数				
	④				

2 指標等の推移

指標名				前期基本計画					後期基本計画				
対象指標	単位	数値区分		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
A 人口	人	見込み値						71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430
		実績値		72,305	72,018	71,880	71,602	71,370	71,249	71,395	71,434		
B		見込み値											
		実績値											
C		見込み値											
		実績値											
① 生涯学習を行っている市民の割合	%	目標値		29.0	31.0	33.0	35.0	37.0	30.0	31.0	32.0	33.0	33.3
		実績値		29.0	31.2	29.4	29.8	30.6	31.2	24.8	29.3		
② スポーツ・レクリエーションを習慣化している市民の割合	%	目標値		37.0	39.0	41.0	43.0	45.0	31.0	32.0	33.0	34.0	35.0
		実績値		34.3	33.0	34.1	28.5	30.5	28.3	24.0	30.3		
③ 図書館レファレンスサービス(調査相談)件数	件	目標値		2,060	2,120	2,180	2,240	2,300	6,970	7,180	7,390	7,610	7,830
		実績値		5,488	5,906	6,488	6,767	6,428	5,245	5,409	5,573		
④		目標値											
		実績値											
目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)													
① 前期の目標値は、5年間(令和元年)で10ポイント増の37.0%としていた。しかし5年後の現在、前期の目標値と平成30年度実績値の乖離が大きく、過去の推移から成り行きでは現状維持が想定されるため、後期では市民の1/3にあたる33.3%を令和6年度の目標とすべく下方修正を行う。なお、各年度の目標値は、段階的に上がるように設定した。													
② 前期の目標値は、5年間(令和元年)で10ポイント増の43.0%としていた。しかし過去5年間の実績が上下しながら伸び悩み、平成30年度には5.6ポイントも下降した。よって、令和6年度の目標値は、平成27年当初の実績値まで回復できるように35%をめざす。なお、各年度の目標値は、段階的に上がるように設定した。													
③ 前期の目標値は、途中で測定方法が変わり実績値との差が生じた。また、実績値は中央図書館が平成28年度にリニューアルし、月曜閉館を開始したため一時的に増加した経過がある。後期の目標値は、今後の人口増加や職員増は見込めないが、毎年の増加を目指していくため、各年度3%上がるように設定した。													
④													

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ○住民個々が、生活の中で生涯学習やスポーツ活動、レクリエーションを必要と感じ、実践する意思を持つこと。 ○自治会などの文化祭やスポーツ大会等の維持、推進。 ○図書館や美術館などでの催し物やイベントなどへも積極的に参加し、生涯学習に対する理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○やる気を持った市民に生涯学習の機会や場所の提供。 ○豊かな心身を醸成する手段として、生涯学習が必要であることの周知。 ○スポーツ推進委員と協力して、軽スポーツの普及啓発。 ○グラウンドゴルフ、ファミリーバドミントン、バタンク、輪投げ等の軽スポーツ用具の貸出。 ○本を読むことの大切さ、芸術作品に触れる喜びを理解してもらう工夫。

4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<ul style="list-style-type: none"> ○全市民を対象としているので、おのずと2025年問題に直結した対象の変化が訪れる。元氣な前期高齢者が後期高齢者に移行していく過渡期であり、定年延長も拡大しつつある。 ○忙しい現役を卒業し、まだまだ体力と活力のある60代をターゲットに絞り、事業展開していくことが、ゆくゆくは医療費増大を抑える手段としても有効である。 ○余暇は十分ある人に脳トレ、軽スポーツ等を習慣化してもらいような気運が高まっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○老後の老人の健康の為にスポーツ(例えばゲートボール、グラウンドゴルフ等)の大会を開催して、市民の交流を図ると同時に広報を通じて積極参加を促してほしい。 ○各地区には運動するところがない、地区に一つ所々でいいので作ってほしい。 ○体育館や市民プールで子供向けの教室が格安で参加できるのはとてもありがたいです。 ○図書館の学習室の充実(時間が短く、テスト前は満席、そのような時は空き部屋等開放してほしい)。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	56	54	56	53	
関連事業予算額(単位:千円)	934,872	477,441	874,339	537,015	
(予算額の内訳)	国庫支出金	0	607	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	60,200	10,200	332,500	7,900
	その他	411,754	7,012	41,121	31,587
	一般財源	462,918	459,622	500,718	497,528

(1)目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった		・指標①は、目標値(32.0)と比べ2.7ポイント下回った。 ・指標②は、目標値(33.0)と比べ2.7ポイント下回った。 ・指標③は、目標値(7,390)と比べ1,817件下回り、達成率は75.4%だった。 指標①、②、③とも目標値を下回っており、新型コロナウイルス感染症が影響していると考えられる。
(2)時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した		・指標①は、R3年度比で4.5ポイント上回ったが、R2現況値比からは1.9ポイント下回っている。 ・指標②は、R3年度比で6.3ポイント上回った。R2現況値比からは2ポイント上回っている。 ・指標③は、R3年度比で164人、3.0%上回った。R2現況値比からは328人、6.2%上回っている。 指標①、②とも、R2からR3年はコロナ感染症の影響により大幅に下回り、R4は自粛等が緩和し、外出機会が増えたことから上昇している。 指標③は、中央図書館でR4.10.1~11.10まで館内設備工事のための臨時休館があったが、R4はコロナ禍による制限が緩和したことから回復傾向にある。また、R2から比較すると毎年度増加している。
(3)他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		中央市の後期基本計画において、「生涯学習講座が充実していると思う市民の割合」では、令和4年度実績23.8%、令和9年度目標値30.0%である。全く同じ設問では無いが、概ね3割を目標にしており推進状況としては同水準である。 ・指標③は、R3年度は南アルプス市5,409件、甲斐市9,535件、笛吹市4,046件、R2年度はコロナ禍により全県的に低下したが、制限が緩和したことで回復傾向にある。(他市データが3年度分しかない為)

7 基本計画期間における施策方針

(1)施策の基本方針
<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を持ち活動する市民の掘り起こしを図り、趣味を通じた仲間づくりを推進する。 ・気軽に運動に親しめる環境を整え、スポーツによる健康増進効果や人と人との交流の楽しさが実感できる機会を提供する。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R5年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R6年度)の方針

基本事業	今年度(R5)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R6)の方針
1 生涯学習機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市民自らが講師となり開催する「自主企画講座」を実施し、生涯学習活動での市民の主体性を高めている。課題としては、自主企画講座以外の分野の講座の開催。 ・図書館での「図書館生涯学習推進事業」、美術館での「教育普及事業」を継続的に実施し、生涯学習の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主企画講座の実施と合わせ、「アンケート結果を参考にした講座」、「市として学んで欲しい分野の講座」の開催を検討、実施。 ・関係機関と連携し、美術館における「教育普及事業」による生涯学習を推進する。 ・「図書館生涯学習推進事業」により、ふるさと教育の普及を図る。
2 スポーツや運動をする機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員や市スポーツ協会と連携し、手軽に継続して取り組むことができるニュー・スポーツの普及を实践する。 ・ニュースポーツは、体験してもうことが大事なので(実践によりルールや面白さがわかる)、体験機会の創出、イベント参加への動機づけが課題である。 ・スポーツ経験があまり無い層(家族等)に対しての機会、場所の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員や市スポーツ協会と連携し、手軽に継続して取り組むことができるニュー・スポーツの普及を实践する。 ・各種イベントの参加者に対し、市LINEQRコードを読み取ってもらう活動を進め、周知が効果的となるような環境づくりにより運動機会の創出、充実につなげる。 ・親子で気軽に楽しめるスポーツ、遊び方の提供(イベント・周知)
3 文化施設・スポーツ施設の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設、体育施設で開催する講座、イベントなどをSNS等で発信し、利用促進を図る。5類となりガイドラインも撤廃されたが、今後もコロナ感染症の状況を注視しなければならない。 ・多様化する利用者ニーズと社会状況の変化(読書バリアフリー・GIGAスクール・子育て支援・ふるさと教育・過疎対策等)に有効である、電子書籍システムの導入を検討する。電子書籍導入済みの、県立図書館等との差別化が課題となる。 美術館では、学校・保健福祉部と連携し、児童・生徒、保育園児等を対象に美術館の活用方法説明やプログラムを企画実施していく。課題は、絵画鑑賞等を難しくとらえ、美術館が身近なものとして利用されない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種イベントの参加者に対し、市LINEQRコードを読み取ってもらう活動を進め、周知が効果的となるような環境づくりにより利用促進につなげる。 令和6年11月に図書館システム更新が予定されており、これに合わせ電子書籍システムの導入を検討する。電子書籍の選書にあたっては、本市の特性に関連した書籍(自然、郷土史、子育て支援等)を集めることで、利便性の向上とともに、施策の推進を図る。 美術館の企画・イベントをSNS等を活用し周知しながら、体験型プログラムを実施し、美術館がより身近になるような取り組みを推進する。
4		
5		